

# とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために

～ 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果から ～

令和元（2019）年 栃木県教育委員会

この資料は、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、栃木県(公立)と全国(公立)との比較から分かる特徴をまとめたものです。本資料を活用して、「教科に関する調査」や「各質問紙調査」の結果から見られる県全体の傾向を把握するとともに、とちぎの子どもの「確かな学力」の向上に向けた指導改善にお役立てください。

## 1 教科に関する調査の結果から

### (1) 各教科の平均正答率

国語における全国との差は、小学校、中学校ともに+0.2ポイントとなっています。算数・数学においては、小学校で-1.4ポイント、中学校で-0.7ポイントとなっています。また、今年度初めて実施された英語では、-1.0ポイントとなっています。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、習得した知識・技能を活用して自ら考え、まとめ、表現する学習活動を充実させていきましょう。



#### ○ 本県（公立）の平均正答率と全国（公立）との差

※ 単位：上段%,下段ポイント

##### 〈小学校第6学年〉

問題	H27	H28	H29	H30	R1
国語A	68.9 (-1.1)	70.6 (-2.3)	74.9 (+0.1)	70.7 0.0	<b>64.0</b> (+0.2)
国語B	63.1 (-2.3)	55.9 (-1.9)	57.1 (-0.4)	54.6 (-0.1)	
算数A	73.9 (-1.3)	75.0 (-2.6)	78.7 (+0.1)	63.0 (-0.5)	<b>65.2</b> (-1.4)
算数B	43.0 (-2.0)	45.2 (-2.0)	44.6 (-1.3)	50.6 (-0.9)	
理科	60.0 (-0.8)			61.0 (+0.7)	

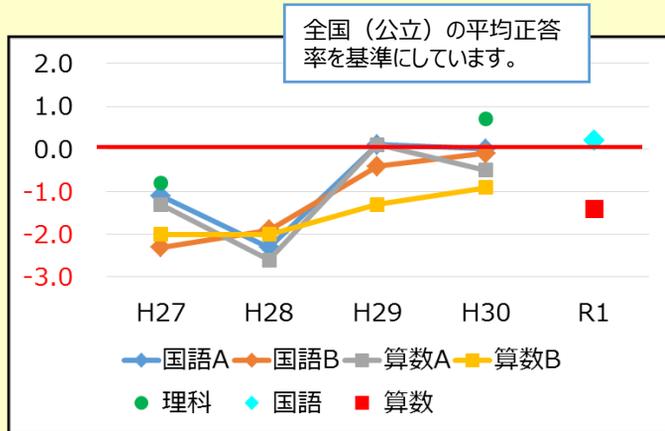
##### 〈中学校第3学年〉

問題	H27	H28	H29	H30	R1
国語A	75.7 (-0.1)	75.7 (+0.1)	77.2 (-0.2)	75.7 (-0.4)	<b>73.0</b> (+0.2)
国語B	65.2 (-0.6)	66.6 (+0.1)	72.6 (+0.4)	60.6 (-0.6)	
数学A	63.5 (-0.9)	61.2 (-1.0)	64.1 (-0.5)	64.6 (-1.5)	<b>59.1</b> (-0.7)
数学B	40.4 (-1.2)	43.1 (-1.0)	48.0 (-0.1)	46.1 (-0.8)	
理科	53.1 (+0.1)			66.7 (+0.6)	
英語					<b>55.0</b> (-1.0)

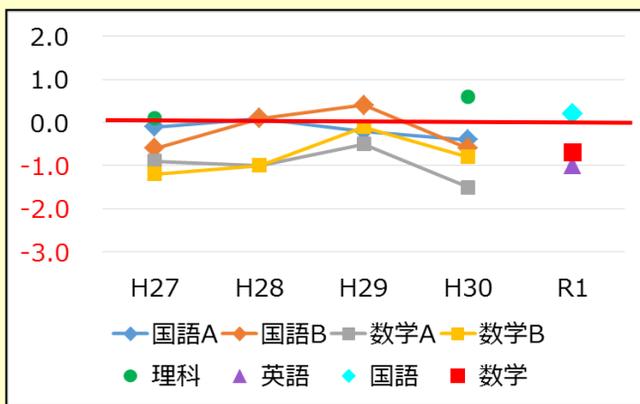
#### ○ 全国（公立）の平均正答率との差の推移

※ 単位：ポイント

##### 〈小学校第6学年〉



##### 〈中学校第3学年〉



## (2) 設問別調査結果

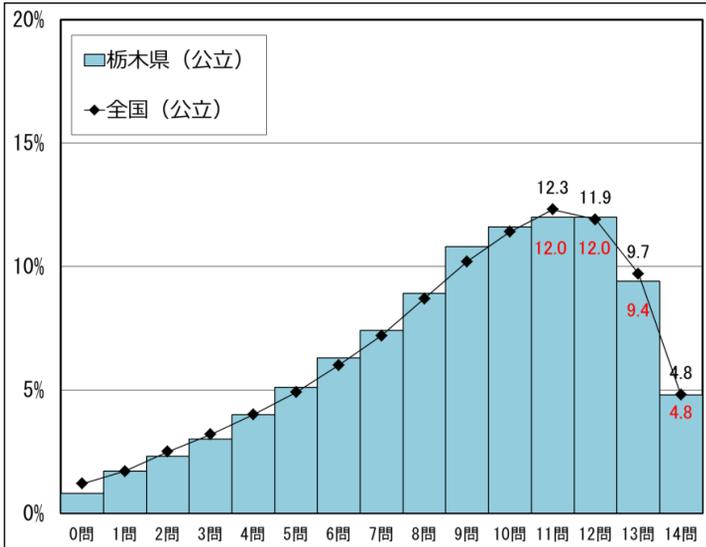
各教科の正答数分布グラフ、問題形式ごとの平均正答率、設問別正答率等を栃木県（公立）と全国（公立）とを比較しながら見ていきましょう。

また、右ページでは、課題が見られる設問を取り上げ、解説しています。課題解決に向けて、これからの授業をどのように工夫・改善させていくかについて考えていきましょう。



### ① 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



〈問題形式ごとの平均正答率〉 (%)

	選択式 (7問)	短答式 (4問)	記述式 (3問)
栃木	75.7	47.0	59.1
全国 (公立)	75.1	48.7	57.6
*全国との差	0.6	-1.7	1.5

正答数分布グラフをみると、本県は、全国と同様の分布であることがわかります。

問題形式ごとの平均正答率については、選択式・記述式問題においては、0.5ポイント以上全国（公立）を上回っていることがわかります。

〈設問別正答率〉

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率		無解答率	
		話す 聞く	書く	読む	伝国	関心	話す 聞く	書く	読む	知識 技能	選択	短答	記述	栃木 (%)	全国との差	栃木 (%)
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する		5-6 エ						○		○			70.4	-0.8	0.3
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する		5-6 ウ						○		○			65.7	2.3	4.0
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く		5-6 ウ						○			○		30.5	1.7	3.6
1四 (1) ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□部アを、漢字を使って書き直す (調査のたいしょう)				5-6 (1)ウ (ア)							○		43.0	1.1	9.3
1四 (1) イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□部イを、漢字を使って書き直す (友達にかざらず)				5-6 (1)ウ (ア)							○		69.5	0.1	12.4
1四 (1) ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□部ウを、漢字を使って書き直す (かんしんをもってもらいたい)				5-6 (1)ウ (ア)							○		31.0	-4.6	5.4
1四 (2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す				3-4 (1)イ (ウ)							○		44.7	-3.1	10.4
2一 (1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□に入る、疑問に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選択する		5-6 ウ									○		80.5	-0.2	0.7
2一 (2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□に入る、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く		5-6 ウ					○					○	77.7	1.8	4.2
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する		5-6 イ									○		90.5	2.0	2.5
3一	豊職人への【インタビューの様子】の□に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	5-6 エ										○		81.2	-0.1	2.1
3二	豊職人への【インタビューの様子】の□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	5-6 エ										○		67.4	0.0	2.8
3三	【インタビューの様子】の□に入る、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	5-6 エ							○	○			○	69.1	0.9	12.3
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□に入る適切なものを選択する（習より慣れよ）				3-4 (1)ア (イ)							○	○	74.2	1.2	5.6

【小学校国語 1 三】

出題の趣旨：目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる。

平均正答率 県 30.5% (全国 28.8%)

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。

なぜなら、

●

70字

40字

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。合わせて書きましょう。

(条件)

○「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

○「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。

○書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の型用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
 ※の印から書きましょう。とらうで付箋を貼らないで、続けて書きましょう。

<類型から見られる本県児童の実態>

- 誤答である解答類型4「(1)からのみ、分かったことを書いている」ものの反応率は、20.6%であり、主な解答例としては、以下のようなものがある。
  - ・ 多くの人から「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答が出たからです。(63字)
 このように解答した児童は、「3」の段落に「2」の段落から分かったことを根拠として書くことを捉えることはできているが、(1)と(2)の両方から分かったことを根拠として取り上げて書くことができていないものと考えられる。

<今後の指導に当たっては>

- 調べたことを報告する文章では、調べて分かった事実が、自分の考えを支える理由や事例となる。より説得力をもって自分の考えを伝えるためには、調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書かせるようにすることが重要である。
 

授業では、書いたものを発表し合って交流する活動を行うことが有効であり、選んだ事柄が考えの理由や事例としてふさわしいか、また、考えをより明確に伝えるために必要となる事柄を十分に挙げているかなどの視点から文章の内容を互いに吟味し、助言し合わせるなどが考えられる。

【小学校国語 1 四(1)】

出題の趣旨：学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

平均正答率 ア 県43.0% (全国 41.9%) ウ 県31.0% (全国 35.6%)

ウ

イ

(らず)

ア

四 高橋さんは、「報告する文章」を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、「習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。【報告する文章】の——部アからウのひらがなを、漢字で正しいように書きましょう。

そこで、地いきの人三十人を調査の【ア】いしうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に【イ】がざらず多くの友達に伝え、公衆電話について【ウ】かんしんをもってもらいたいと思います。

<類型から見られる本県児童の実態>

- ア「対象」について、誤答となる解答類型2、3を「『たい』を『対』と解答しているが、『しょう』を『象』と解答していないもの」としてまとめたものの反応率は、24.0%である。
 

このように解答した児童は、同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができていないものと考えられる。また、ウの「関心」についても、同様の傾向が見られた。

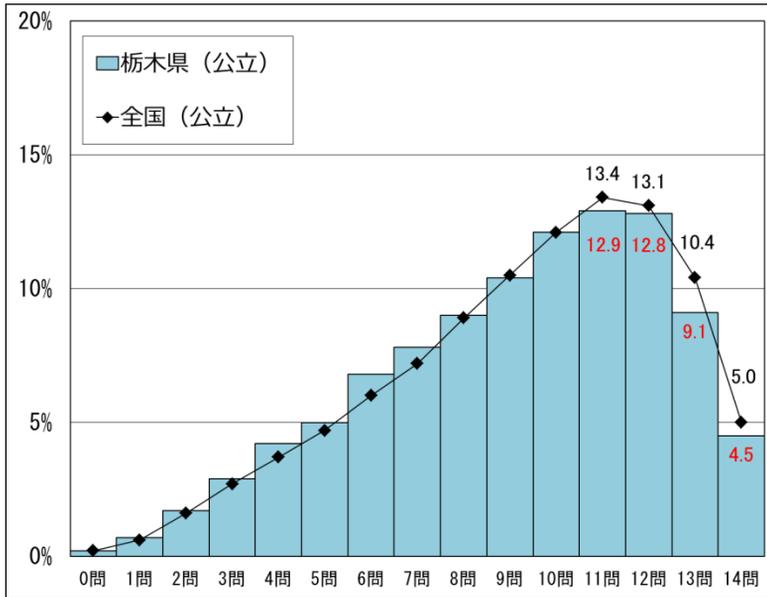
<今後の指導に当たっては>

- 漢字の指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにする必要がある。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導することが大切である。
 

授業で、同音異義語の指導を行う際は、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切である。例えば、新出漢字を学習する際に、同じ音の漢字を知っているだけ挙げさせ、それぞれの意味や使い方を国語辞典や漢字辞典などを使って確認させるとともに、学習した漢字を使って文や文章を書かせる活動を行うことが考えられる。

## ② 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



〈問題形式ごとの平均正答率〉 (%)

	選択式 (5問)	短答式 (5問)	記述式 (4問)
栃木	74.1	71.3	46.4
全国 (公立)	75.7	72.8	47.4
*全国との差	-1.6	-1.5	-1.0

正答数分布グラフから、本県の状況は、11問以上正答している児童の割合が全国（公立）に比べて少ないことが分かります。

問題形式ごとの平均正答率については、すべての問題形式において、全国（公立）を1.0ポイント以上、下回っていることが分かります。

〈設問別正答率〉

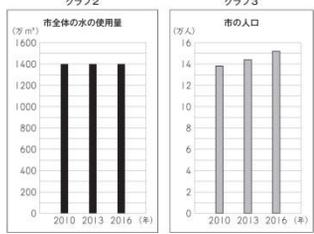
問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率		無解答率
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心	考え方	技能	知識理解	選択	短答	記述	栃木 (%)	全国との差
1 (1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ			4(1) アイ				○	○			91.9	-1.2	0.1
1 (2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくりかせることができる形を選ぶ			4(1)イ 5(1)イ			○		○			59.9	-0.4	0.5
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く		5(1) ア			○				○		42.9	-1.0	6.6
2 (1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ			3(3) ア			○		○			95.5	0.3	0.1
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	4(3) イ		3(3) ア			○			○		76.4	-2.2	0.7
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く		5(4) ア	3(3) ア		○				○		48.8	-3.3	1.5
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	4(5) ウ		4(2) ア			○			○		57.8	-2.3	0.8
3 (1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	3(2) イウ				○				○		80.8	-1.0	0.7
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	3(2)ウ 4(3)エ				○				○		32.1	1.0	10.3
3 (3)	被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	4(3) イエ				○				○		74.6	-0.3	1.8
3 (4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	5(3) アイウ		3(1)				○	○			41.0	-6.0	1.6
4 (1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ			4(1)		○			○			82.2	-0.5	1.2
4 (2)	何秒後にコンドゥに乗ることができるのかを求める式を書く	3(3) イ				○				○		66.7	-1.9	4.0
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する		5(4) ア	5(1) ア		○				○		61.7	-0.9	2.9

### 【小学校算数 2 (3)】

出題の趣旨：二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらに関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

平均正答率 県 48.8% (全国 52.1%)

(3) 次に、かいとさんたちは、市全体の水の使用量には、人口が関係しているのではないかと思い、グラフ2とグラフ3を見つけ、2つのグラフをもとに考えています。



あやのさんが言うように、グラフ2とグラフ3を見ることで、2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 1人あたりの水の使用量は、減っている。
- 2 1人あたりの水の使用量は、変わらない。
- 3 1人あたりの水の使用量は、増えている。
- 4 1人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。

かいと：私たちが、水を大切に使っているといえるのでしょうか。

ゆりか：市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水をどのくらい使っているかはわかりません。

あやの：グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

### ＜類型から見られる本県児童の実態＞

○ 誤答である解答類型15「【番号】2【わけ】市の人口が増えています。市全体の水の使用量は変わらないからです。」の反応率が19.5%である。このように解答した児童は、複数のグラフが提示された際、一つ一つのグラフから特徴や傾向を読み取ることはできているが、複数のグラフの特徴や傾向を関連付けて判断することができていない、と考えられる。

### ＜今後の指導に当たっては＞

○ 資料を整理し特徴や傾向を読み取る学習活動においては、児童が興味・関心をもって考察したり判断したりできるよう、児童や学級にとって身近な話題や出来事などから問題場面を設定することが大切である。授業においては、一つの資料からの判断だけでなく、複数の資料を関連付けて判断するような事象を扱ったり、複数の資料を提示してそこから分かることを交流させたりする活動が考えられる。その際、児童が友達のまとめたものと自分のまとめたものを比較しながら、問われたことに対する解答としてより適切な表現に書き直すなどの工夫が考えられる。

### 【小学校算数 3 (4)】

出題の趣旨：示された除法の式の意味を理解しているかどうかをみる。

平均正答率 県 41.0% (全国 47.0%)

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを0.6m買ったときの代金が180円でした。

このリボン1m分の代金は、いくらですか。

1m分の代金は  $180 \div 0.6$  の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

だから、 $180 \div 0.6$  の答えの は、300です。

$1800 \div 6$  は、何m分の代金を求めている式といえますか。

下のあからえまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- あ 0.6m分の代金
- い 1m分の代金
- う 6m分の代金
- え 10m分の代金

### ＜類型から見られる本県児童の実態＞

○ 誤答である「う」と解答した児童の反応率が26.7%、「え」と解答した児童の反応率が16.2%である。このように解答した児童は、問題文に示されている、1mの代金を求める除法の式の意味理解が不十分であることが考えられる。また、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求める上で、除法に関して成り立つ性質を利用しているが、除法に関して成り立つ性質の理解と除法の式の意味理解が知識としてつながっていないことが考えられる。

### ＜今後の指導に当たっては＞

○ 本設問では、問題を解決する上で、演算を決定し立式した後、除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫している。それぞれの式が何を表しているのかを振り返ることを通して、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが大切である。

授業においては、除数を小数から整数に直すときに、除法に関して成り立つ性質が用いられていることを確認させた後、何を求めている式か、具体物や図、数直線などを用いて考察させ、式と具体的な場面とを関連付けながら話し合わせる活動などの工夫が考えられる。